

2021年3月期 第1四半期 業績概要

窪田 顕文

アンリツ株式会社
取締役
専務執行役員 CFO

2020年7月30日



東証第1部：6754
<https://www.anritsu.com>



Anritsu
envision:ensure

(ノート部記載なし)

注記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目次

- I. 事業概要
- II. 2021年3月期第1四半期 連結決算概要
- III. 2021年3月期 通期業績予想（連結）
- IV. 5Gの市場トレンドと当社の取組について

（ノート部記載なし）

I. 事業概要

T&M事業
ネットワーク社会の進化・発展

- ▶ モバイル市場 : 5G, LTE
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : 有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備

PQA事業
食の安全・安心

- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機

その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス

(セグメント別売上比率) 2020年3月期 実績(連結) : 1,070億円

T&M 70%			PQA 21%	その他 9%
モバイル 56%	ネットワーク・インフラ 25%	エレクトロニクス 19%		

(T&M事業 地域別売上比率)

日本 22%	アジア他 44%	米州 22%	EMEA 12%
-----------	-------------	-----------	-------------

T&M : Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

(セグメント別売上比率) 2021年3月期 (4月~6月)実績(連結)

T&M: 75%			PQA 17%	その他 8%
モバイル 61%	ネットワーク・インフラ 24%	エレクトロニクス 15%		

(T&M事業 地域別売上比率) 2021年3月期 (4月~6月)実績

日本 15%	アジア他 52%	米州 23%	EMEA 10%
-----------	-------------	-----------	-------------

II - 1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比増収、増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	当第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	272	290	18	7%
売上高	232	257	25	11%
営業利益	27	51	24	90%
税引前利益	25	51	26	102%
当期利益	18	35	17	97%
当期包括利益	8	37	29	348%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

グループ全体の受注高は前年同期比7%増の290億円、売上高は前年同期比11%増の257億円となりました。営業利益は前年同期比90%増の51億円となりました。

当期利益は前年同期比97%増の35億円、当期包括利益は37億円となりました。

II - 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

➡ T&M：5G商用化に向けた需要は順調

国際会計基準(IFRS)		前第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	当第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
T&M	売上高	173	193	20	11%
	営業利益	28	49	21	79%
PQA	売上高	41	44	3	8%
	営業利益	△2	1	3	-
その他	売上高	18	20	2	10%
	営業利益	3	2	△1	△32%
調整額	営業利益	△2	△2	0	-
合計	売上高	232	257	25	11%
	営業利益	27	51	24	90%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

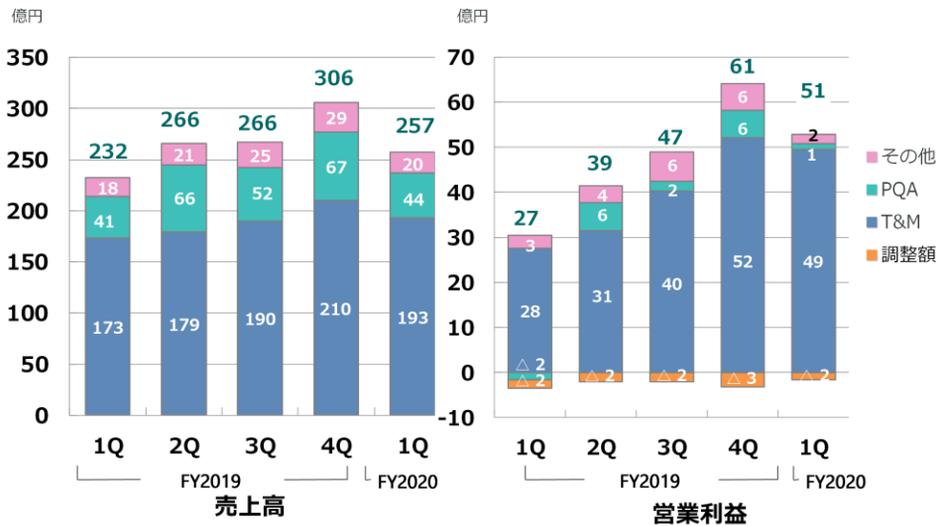
T&M：Test & Measurement PQA：Products Quality Assurance

T&M事業においては、5G商用化とデータセンター関連需要により、前年同期比で増収増益となり、売上高は11%増の193億円、営業利益は79%増の49億円(営業利益率25.7%)となりました。

PQA事業は、食品市場において自動化、省力化に向けた設備投資ニーズは堅調で、前年同期比増収増益となり、売上高は8%増の44億円、営業利益は、3億円増の1億円(営業利益率3.1%)になりました。

II - 3. 連結決算概要 - 四半期毎売上高・営業利益 -

➡ 1Q(4-6月)営業利益率：連結20%, T&M26%,PQA3%



Anritsu envision:ensure

7

Financial Results FY2020 Q1
Copyright© ANRITSU

第1四半期の連結及び各事業セグメントの営業利益、営業利益率は下記のとおりです。

連結 51億円(営業利益率: 19.9%)

T&M 49億円(営業利益率: 25.7%)

PQA 1億円(営業利益率: 3.1%)

Ⅱ - 4. 事業別営業概況

セグメント 2021年3月期（4月-6月）の状況	
➡ T&M：5G商用化スケジュールが順調に進展	
モバイル	5G開発の需要が順調に推移
ネットワーク インフラ	データセンター等への投資が拡大
アジア他・日本	5G商用化に向けた投資拡大
米州	5Gサービスの今後のエリア拡充に注視
➡ PQA：食品市場での自動化、省力化に向けた設備投資は堅調。新型コロナウイルスの影響を注視	

T&M：Test & Measurement PQA：Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

II - 5. 受注高推移

▶ T&M：前年同期比12%増



Anritsu envision:ensure

9

Financial Results FY2020 Q1
Copyright © ANRITSU

T&M事業の第1四半期受注高は、前四半期からの受注延伸分を取り込むと共に、5G商用化とデータセンター関連需要を獲得し、前年同期比22億円(11.6%)増の220億円となりました。

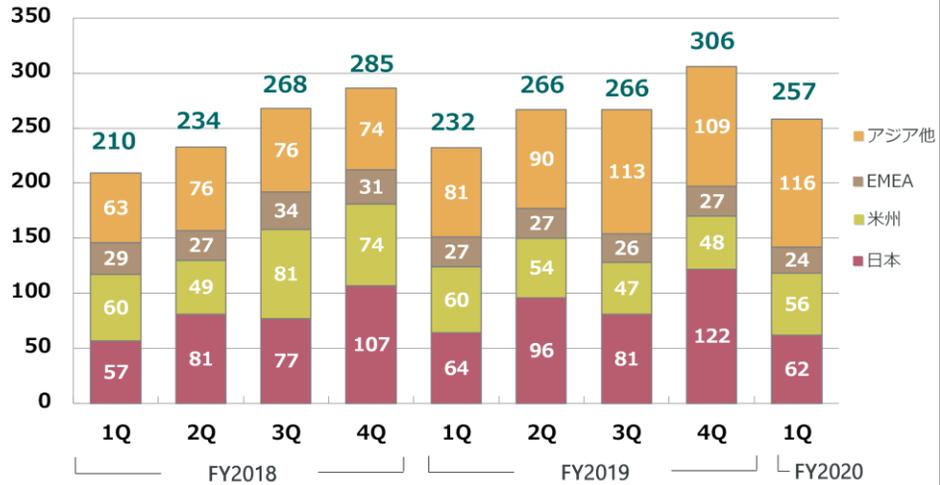
PQA事業の第1四半期受注高は、新型コロナウイルスの影響もあり、前年同期比6億円(11.9%)減の47億円となりました。

なお、受注残高はグループ全体で252億円(前年同期比1.6%減)、T&M事業では182億円(同0.5%減)、PQA事業では52億円(同9.0%減)でした。

II - 6. 地域別売上高推移

▶ アジア他で5G関連の需要が好調、前年同期比増収

億円



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(ノート部記載なし)

II - 7. キャッシュフロー

➡ 営業CFマージン率19.1%

FY2020 1Q

- ① 営業CF： 49億円
- ② 投資CF： △11億円
- ③ 財務CF： △110億円

フリーキャッシュフロー
(①+②)： 38億円

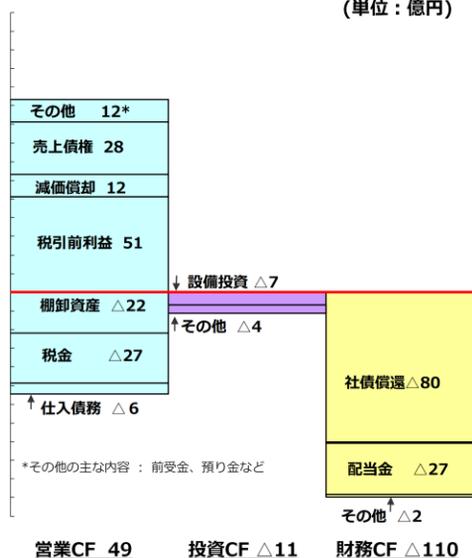
現金同等物期末残高
405億円

有利子負債残高
66億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

内訳

(単位：億円)



営業キャッシュフローは、49億円の資金獲得となりました。

投資キャッシュフローは、11億円の支出でした。

その結果、フリー・キャッシュフローは38億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローは、110億円の資金支出となりました。主なものは、社債の償還80億円、配当金の支払い27億円(期末配当分1株20円)です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より72億円減の405億円となりました。

Ⅲ. 2021年3月期 通期業績予想（連結）

➡ 4月27日の公表値のとおり

（単位：億円）

		2020/3期		2021/3期	
		前期実績	通期予想	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
売上高		1,070	1,100	30	3%
営業利益		174	175	1	0%
税引前利益		172	175	3	2%
当期利益		134	135	1	1%
T&M	売上高	752	770	18	2%
	営業利益	151	155	4	2%
PQA	売上高	226	240	14	6%
	営業利益	13	18	5	40%
その他	売上高	93	90	△ 3	△ 3%
	営業利益	19	12	△ 7	△ 37%
調整額	営業利益	△ 9	△ 10	△ 1	-

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

（参考）FY19 為替レート : 1米ドル109円、1ユーロ=121円
FY20 想定為替レート : 1米ドル105円、1ユーロ=120円

Anritsu envision:ensure

12

Financial Results FY2020 Q1
Copyright© ANRITSU

2021年3月期の通期業績の見通しは4月27日の公表値から変更はありません。

新型コロナウイルス感染拡大による不透明な社会・経済状況が依然として継続しています。当見通しは、新型コロナウイルスが上期中に収束することを前提としており、今後の新型コロナウイルス感染拡大の状況や収束時期によっては、経済活動の停滞が更に長期化するなど、当社グループの業績へ新たな影響を及ぼす可能性があります。今後、開示すべき重大な影響が見込まれる場合には速やかに公表します。

IV. 5Gの市場トレンドと 当社の取組について

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

濱田 宏一

(ノート部記載なし)

IV-1.新型コロナウイルス下における主な取り組み

主な動き		アンリツの主な取り組み
1月	WHO緊急事態宣言	新型コロナウイルス対策本部設置 (1/31) ・中国出張および不要な海外出張禁止、訪問者のアンケート・検温
2月		・テレワーク、時差出勤、車通勤(臨時駐車場)、昼食時間の分割
4月	日本緊急事態宣言	4/9～ テレワーク+公共交通機関での通勤禁止 出社人数削減率 60% ・全社員へマスク配布、就業中はマスク着用 4/20～ テレワーク強化+製造以外の全部門の出勤禁止 出社人数削減率 80% ・VPN増強、GW期間2週間シャットダウン、休日振替
5月	日本緊急事態宣言解除	テレワーク強化・全部門の出勤禁止の解除 出社人数削減率 60%へ 新常态チーム活動開始 ・ソーシャルディスタンス、会議室、事務机、消毒、非接触 ・健康セミナー動画配信(テレワーク対応)
6月	東京アラート発令	テレワーク(ローテーション)+東京通過の公共交通機関での通勤禁止 出社人数削減率 30%を維持
7月	神奈川警戒アラート発令	テレワーク(ローテーション)強化+公共交通機関での通勤禁止 出社人数削減率 60% (製造を除くと70%) ・通勤用社用バスの運行開始

当社グループは、1月末には緊急対策本部を立ち上げ、4月の緊急事態宣言時には、テレワークの実施拡大により、出社人数の削減率80%を実現しました。緊急事態宣言解除後もテレワークを一定レベルで継続しつつ、会議室・エレベータ・食堂等の利用におけるソーシャルディスタンスの確保、各職場の消毒徹底・非接触での業務のあり方などを浸透させる新常态への取り組みを実践しております。

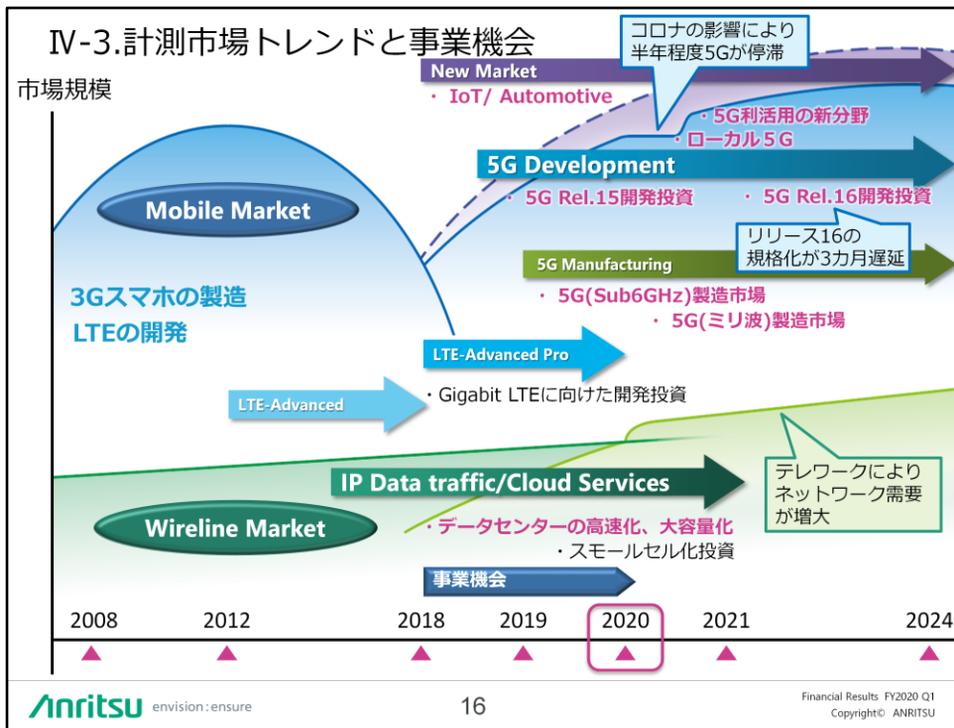
現在は、ローテーションで行っているテレワーク日数を増加させることにより、出社人員削減率 70%を実現しております。

先行きは依然不透明ですが、当社グループは、今後もリスクレベルに応じたテレワーク対象範囲の最適化、ITインフラの整備・拡張および調達が多様化等の対策に取り組むことで、事業への影響を最小限に抑えるべく努めます。

IV-2.新型コロナウイルス下における営業活動状況

	営業の活動状況
日本	第二波懸念で顧客訪問に制限出始める
米州	経済活動一部で再開も再び制限の動き リモート販促等の営業活動が中心
EMEA	経済活動再開 営業活動開始するが顧客訪問には制限多し
アジア 他	ほぼ正常に営業活動可 ただし、インド等特定地域では依然営業活動は不可

(ノート部記載なし)



新型コロナウイルスの影響により、多くの国で経済活動の停滞が続いています。

モバイル計測市場も例外ではなく、5Gのサービス展開に関してもスローダウンしている地域が多くあります。

これらの地域でも、新型コロナウイルスの感染が落ち着くことで、5Gサービスの展開やネットワークの拡充が再開され、遅れを取り戻すように加速されると想定しております。

IV-4. 注目市場向けソリューションについて

T&M

5G(Sub6GHz)
製造市場

5G(Sub6GHz)端末
製造に向けて



データセンター

データセンターの
高速化に向けて



PQA

医薬品市場

医薬品市場に向けて



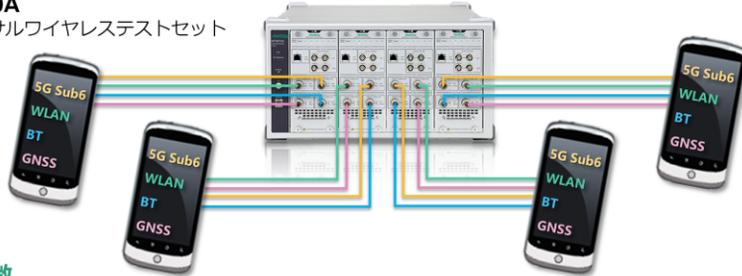
弊社が注目している市場向けのソリューションについてご紹介致します。

IV-5. 5G Sub 6 GHz 端末製造向けソリューション

5G Sub-6GHzスマートフォンの量産用測定器

MT8870A

ユニバーサルワイヤレステストセット



■ 特徴

複数アンテナの同時測定と4台同時測定でスマートフォンの生産効率の向上

- ・スマートフォンの複数無線通信方式（Cellular/WLAN/BT/GNSS）の並列測定
- ・4台のスマートフォンの同時測定

■ 対象市場

- ・スマートフォン製造市場、コネクティビティ・IoT製造市場

■ 対象顧客

- ・スマートフォン・携帯端末ベンダ、EMS

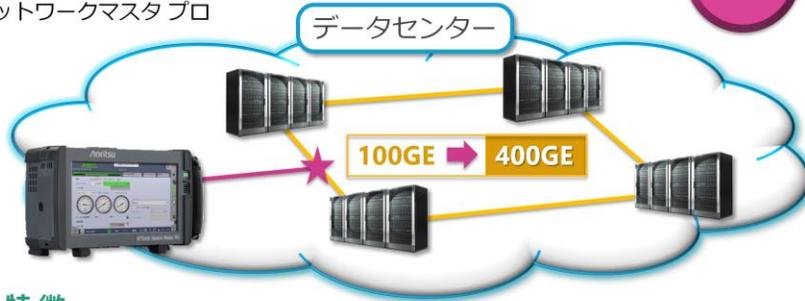
(ノート部記載なし)

IV-6. データセンターの高速化向けソリューション

400Gイーサネットに対応したポータブル測定器

MT1040A
ネットワークマスタプロ

新製品



■ 特徴

データセンターの高速化の検証 100Gイーサネット ➡ 400Gイーサネット

■ 対象市場

・通信ネットワーク、データセンター

■ 対象顧客

・通信事業者、通信ネットワーク工事会社、通信設備保守会社、ネットワーク機器ベンダ

(ノート部記載なし)

IV-7. 医薬品市場向けソリューション

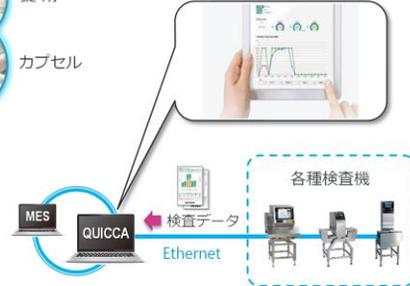
医薬品市場向け金属検出器

KDS1004PSW 錠剤・カプセル用金属検出機



Quicca Pharma

医薬品向け
総合品質管理/制御システム



■ 特徴

錠剤、カプセル内の金属異物を高感度に検出し、OK/NGを判定
・0.1mm以上の金属片を検出可能

■ 対象顧客

・製薬会社

Anritsu envision:ensure

20

Financial Results FY2020 Q1
Copyright© ANRITSU

PQA事業のソリューションを紹介致します。

錠剤・カプセル用金属検出機:KDS1004PSW

錠剤、カプセル、タブレット用金属検出機は、医薬品の錠剤やカプセル、タブレット状の食品に混入した金属異物を検出します。新市場である医薬品市場のさらなる侵攻を狙います。

医薬品向け総合品質管理/制御システム:Quicca Pharma

総合品質管理・制御システム[QUICCA]は、複数の検査機器の測定データの記録や動作来歴を一元管理できます。IoT活用により品質向上・生産性向上を目的とした管理システムです。Quicca Pharmaは、医薬品生産検査ラインに特化した管理システムです。



(ノート部記載なし)